



蜃気楼のふしぎ ⑧



日本蜃気楼協議会長 **木下 正博**

歴史と文化

「蜃気楼」の語源は一体なん
でしょうか。蜃気楼の歴史を探
り、美術工芸品に見る蜃気楼
図から謎を解いてみましょう。

【加賀藩主も見た】

現在までに分かっている蜃気
楼の最古の記録は、紀元前90年
頃に、中国前漢時代の歴史家・
司馬遷がまとめた「史記」だと
考えられます。その中の「天官
書」の一節に「海旁蜃氣象楼
台」とあり、これが蜃気楼の語
源とされています。一方、国内
では1669(寛文9)年に加賀藩
の儒学者・沢田宗堅が書いた
「寛文東行記」が最も古い確実
な記録です。藩主・前田綱紀
の参勤交代に先だって江戸へ向

かう際、魚津で詠んだとされる
漢詩の一節に蜃気楼を表す「碧
海現蜃楼(へきかいにしんろう
あらわる)」があります。また、
綱紀は魚津に宿泊したとき、
実際に蜃気楼を見えています。彼
はこれを吉兆と喜び「喜見
城」と名付けました。魚津では、
この呼び名が、昭和20年代頃ま
で蜃気楼と併用して一般的に使
われていました。ちなみに、上杉



「伊万里染付蜃気楼図中具型皿」
大蛤が気を吐き楼閣を作る様子
が描かれている(江戸後期)

大蛤が気を吐き楼閣



「刀の鐔」表面には蜃気楼図が
高彫りされている(江戸後期)



「蜃気楼棗」赤と黒の漆
で塗り分けられた側面と
蓋に蜃気楼図が描かれて
いる(2013年)

輝虎(後の上杉謙信)が1564
(永禄7)年に魚津で蜃気楼を
見たという逸話は有名ですが、
これは後の1698(元禄11)年に書
かれた上杉家の軍記「北越軍
談」によるものです(蜃気楼の
ふしぎ④参照)。

【美術工芸品にも】

蜃気楼の「蜃」は大蛤、
「気」は妖気、「楼」は楼閣を
表すとされ、大蛤が妖気を吐
き、幻の楼閣が見えるという
意味に由来します。「蜃」には
もともと蛟龍(龍の仲間)と

いう意味もありましたが、いつ
のまにか身近な蛤が広まったと
考えられます。そして、江戸時
代になると、さまざまな蜃気楼
図が考えだされました。今でも
蜃気楼が描かれた古い皿や椀、
掛軸、かんざし、刀の鐔などが
美術工芸品として残されてい
ます。明治以降、蜃気楼図は徐
々に忘れられていきましたが、
現代ではそのユニークなデザイ
ンが見直され、新たに茶釜や
棗(抹茶の容器)といった茶
道具などが作られています。

「蜃気楼のふしぎ」は今回で
おわりです。蜃気楼について、
もっと詳しく知りたい人は日本
蜃気楼協議会のホームページ
(<http://www.japan-mirage.org>)
をご覧ください。

=おわり

日本蜃気楼協議会(日蜃協)
Japan Mirage Association. 全国
各地の蜃気楼に関する情報交換、
調査研究、教育の普及を図るこ
とを目的に2003年に発足した団体。
会員は、日本各地で活動している
蜃気楼研究者・観察者で構成さ
れ、現在約60人が在籍している。